



「何かひとつでも、できたらいいな」

上記のタイトルは、小さな親切運動に際し、4年生の上田寿さんが書いた作文の題です。

以下、内容を紹介します。

ぼくは、“小さな親切”と考えたときに、自分が何かできているのかなと思いました。けれど、思いつかなくて、ぼくがまわりの人に助けてもらっていたりするの、そこから考えてみました。

そう考えた時に一番に思ったのが、“四つじのおじちゃん”です。毎日、暑い日も寒い日も、雪の日はカッパまで着て、四つじの交差点に立って待っていてくれます。そして、横断歩道をわたらせてくれます。

その時、おじちゃんは、「おはよう。いってらっしゃい」と、元気な大きな声で、え顔で言ってくれます。その声を聞くと、ぼくも元気になります。そして、「今7時30分だよ」と、時間も教えてくれます。ぼくが、前に、「今、何時ですか?」と聞いたのを覚えてくれていて、教えてくれるようになりました。

四つじのおじちゃんは、ぼくが時間を知りたいんじゃないかなと思って、親切にしてくれます。そう思った時に、ぼくができている“小さな親切”を考え直してみました。

考えてみた時に、お母さんに聞いてみたら、「“ありがとう”って言ってもらった時に寿は何をしていたかなと思いたしてみたら」と言われました。

一つ目の“ありがとう”は、お母さんが荷物をたくさん持っている時に持ってあげると、「ありがとう」と言ってくれます。ぼくのお母さんは今にんしんしていて、おなかに赤ちゃんがいます。動きづらそうだし、いつも「あついな。きついな。」と言っていて、大変そうです。だからぼくは、荷物を持ってあげたり、ドアを開けてあげたりしています。お母さんは、その時いつもえ顔になってくれます。

二つ目は、学校で困っているお友達に、「どうしたの?」と話しかけてみて、何に困っているのか聞いたときに、そのお友達に「ありがとう」と言われました。

ぼくは、学校が楽しくて大好きです。お友達とたくさんお話ができて、外で好きなサッカーができて楽しいからです。だから、みんながぼくと同じようにえ顔ですごしてくれたら、ぼくはうれしいです。だから、こまっているお友達がいたら気になります。話を聞いて、助けてあげたら、え顔になってくれます。

“小さな親切”をすると、え顔になってくれるし、親切にしたら、ぼくもえ顔になるんだなと思いました。いいことばかりです。

だから、毎日何か一つでもできていけたらいいなと思います。

この作者の上田さんは、“小さな親切”を考える中で、『相手の思いを察すること』、そして、そこからさらに踏み出し、“ありがとう”と感謝される時の自分の言動を振り返りながら、『相手の困りに寄り添い、行動に移すこと』の大切さとともに、ちょっとした声かけや行動が、自身や周りの人たちの笑顔の花を咲かせることにつながることに気づいたようです。

お互いのちょっとした声かけや行動が増えれば、笑顔の花は、どんどん増えていきます。

上田さんの作文の題の“何かひとつでも、できたらいいな”のように、小さな親切の輪が、学校・家庭・地域に広がっていくことを期待しています。

第2回学校運営協議会を開催しました

8月21日（金）、学校運営協議会を開催いたしました。会では、『本校の学力の状況』と『本校の重点的取組』について、委員の皆様と共有しました。

学力状況については、4月に実施した杵築市学力定着状況調査（4年生）、大分県学力定着状況調査（5年生）、全国学力学習状況調査（6年生）の各種学力調査結果から、子どもたちの学力が確実に定着しつつある一方で、十分に身につけていない内容もあったことから、今後復習を通して、着実に定着させていくことをお伝えしました。

本校の重点的取組については、7月にとった以下の6項目の児童アンケートをもとに、取組状況についてご説明しました。

【知の面】

①算数科において、“どうしてかな”“ふしぎだな”“解き明かしてみたいな”の思いを持ち、進んで課題解決に取り組んだ

②算数科において、友達と話し合って課題を解決することができた

【徳の面】

③自他のよさやがんばりに気づくことができた

④自他を大切にすることができた

【体の面】

⑤取り上げた運動に対する自他の動きの課題を見つけることができた

⑥課題解決に向けて、話し合った方策を生かして運動に取り組んだ

いずれの項目も、子どもたちの肯定的評価が92%以上であり、我々教職員の1学期の取組が身を結んでいることが伺えるものでした。

そこで、2学期は、1学期の取組も踏まえつつ、話し合いのさらなる充実を図るため、「根拠を明らかにして自分の考えを持たせる」「考えの相違を認識させながら話し合いをさせる」「話し合いの視点を明確にして話し合わせる」、また、自ら気づいて行動する子どもたちの姿を増やしていけるよう、「帰りの会で発表する場を設ける」等、後押ししていきたいと思います。

委員から、「学校はよくがんばっている」「先生自身が楽しく、体調を壊さないように・・・」という温かなお言葉があり、大変ありがたく思いました。また、「勉強だけでなく、思い出作り・友達作りも大事です」というご意見もいただきました。

委員の皆様の学校に寄せる温かな眼差しやお言葉を励みに、今後も子どもたちが目指す姿に近づこう、これからも教職員一同頑張ってまいります。

